

政財界・教育界から来賓を迎え記念式典・懇親祝賀会を盛大に挙行



学園創立百周年を祝う「記念式典・祝賀懇親会」が十一月十三日、ウエステインナゴヤキャッスル（名古屋西区）で来賓六百二十七人を迎えて行なわれました。写真上。

後藤泰之副理事長（学長）の開式の辞に続き、後藤淳理事長が学園の歴史を振り返りながら「学園は戦争、戦後の混乱等の厳しい時代を教



式辞を述べる後藤淳理事長

知工業大学を中心に高校、中学、専門学校を擁する工科系総合学園として発展を続けています。これからの『ものづくり』を学園の柱に次の百年に向かつて頑張っていきます」と力強く式辞を述べ、大きな拍

名古屋電気学園は本年、大正時代にいち早く工業化社会の到来と電気の時代表予測した後藤喬三郎先生が電気の技術者養成のため一九一二年（大正元年）に名古屋電気講習所（間もなく設置認可を得て名古屋電気学校に改称）を創立して「百年」を迎えました。百周年を記念して百年の思いを詰め込んだメモリアルギヤラリーをメインとした「淳和（じゅんな）記念館」建設をはじめ、愛工大名電高等学校吹奏楽部と名古屋フィルハーモニー交響楽団による記念コンサート、そして記念式典・祝賀懇親会を挙げて祝うと共に、次の百年へ向けて決意を新たにしました。

名古屋電気学園創立100周年を祝う



愛知工業大学情報電子専門学校
愛知工業大学名電高等学校
愛知工業大学附属中学校

目次	
淳和記念館完成	2
記念コンサート	3
テクノフェア他	4
記念無線局開設	5
卓球全国優勝他	6
高校学校祭など	7
愛名会だより	8

発行所
名古屋電気学園
〒470-0392
豊田市八草町八千草1247
Tel. (0565) 48-8177

手を受けていました。
（理事長の式典での式辞要旨は三ページ目に掲載）

来賓から温かい激励



続いて来賓の田中眞紀子文部科学大臣（小松親次郎私学部部长代

大村愛知県知事



秀章愛知県知事、大沼淳日本私立大学協会长（小出忠孝同副会長・愛知学院大

豊田トヨタ自動車名誉会長

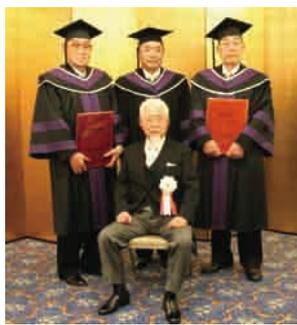
学学院院长代読）、豊田章一郎トヨタ自動車名誉会長が演壇に立ち、「学園は先見の明に富んだ創立者、歴代理事長はじめ教職員が一丸となつて時代進取の私学教育を實踐、今日の隆盛を迎えました。私学を取り巻く状況は日々、厳しさを増しています。全学一致の協力体制で一層の発展を遂げられんことを祈ります」などと祝辞を述べました。小松文科省私学部部长、

大村知事、小出日本私大協副会長、豊田トヨタ自動車名誉会長のほか、神田真秋前愛知県知事、松原武久元名古屋市長、張立国在名古屋中国総領事、木村孟文科省顧問、遠藤守信本学客員教授（信州大学特別特任教授）らが来賓として紹介されました。

神戸氏らに名誉博士学位

この後、名誉博士学位の贈呈式があり、後藤泰之学長から学園役員、神戸政治フルエンギ会長、牛嶋教雄川北電気工業会会長にそれぞれ名誉博士学位が贈られました。

また、創立百周年を記念し学園に寄付金を贈呈した大学同窓会などから、理事長に寄付金目録の贈呈があり、式典を終えました。



理事長（前）、学長（後列中）と名誉博士の学位を贈られた神戸氏（同右端）、牛嶋氏（同左端）

「淳和記念館」開館、記念コンサート開催



学園百年の歴史を詰め込んだメモリアルギャラリーを備えた「淳和記念館」オープニングセレモニーが十月十九日、若水キャンパス南校舎敷地内の記念館



学園創立100周年記念の「淳和記念館」外観

で行なわれました。入り口前に張られた紅白のテープに後藤淳理事長、後藤泰之副理事長、佐藤忍高校・附中校長、波岡滋清水建設名古屋支店長がハサミを入れ、開館を祝いました。写真上左。続く記念館



後藤喬三郎先生らの胸像の除幕をす
る後藤淳理事長の3人のお孫さん

一階の左メモリアルコリドールに据えられた創立者後藤喬三郎先生、後藤鉦二前理事長、後藤淳理事長の胸像の三人のお孫さんが胸像を覆っていた白い布についた紅白のひもを引っ張り、参列者に披露しました。

メモリアルギャラリー

メモリアルギャラリーには創立者、二人の理事長のプロフィール、資料などの



展示Ⅱ写真Ⅱ以外に名古屋電気学校に始まる各設置校での授業風景の写真、実際に使用された電

気機器や実験装置、設置校の部活動等に関わる品などが展示され、かつての教育事情を知る貴重な資料室といえます。卒業生は在学当時の懐かしい写真などの前で、足を止めて見入っていました。

式典

式典は三階の記念ホールで行なわれました。大勢の来賓を前に挨拶に立った後藤淳理事長は、学園百年の歴史を振り返り「学園創立百周年の」記念に先人の苦勞を受け継ぐようなものと思ひ、それらに関わる資料等を集めて展示する記念館建設に思い至りました」と述べました。

元愛知県知事の鈴木礼治理事の祝辞の後、高校にN



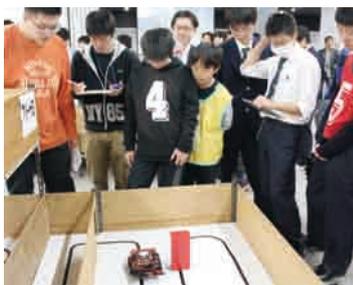
写真上。めでたくり演奏し締めくくりました。

最後に伊藤宏樹顧問の指揮で高校吹奏楽部が、記念館内に立派な練習室を造ってくれた感謝も込めて祝賀演奏し締めくくりました。



式典挨拶で学園のたどってきた100年の歴史を振り返り、記念館建設を語る理事長

記念館の話題



淳和記念館を早速活用した「名古屋電気学園100周年記念・ロボカップジュニア2012愛工大ノード大会」が11月3日、記念館で開かれました。大会には小学生から高校生まで37チーム、51人が出場。レスキューAプライマリ（14歳以下対象）、レスキューAセカンダリ（15歳～19歳以下対象）、レスキューBに分かれて、各種センサーを付けた自律型ロボットをアリーナ内で走らせ、コース上に設けられた障害物や坂道等のコースなどに挑戦していました＝写真左。上位入賞チームは12月15日、同記念館で行なわれた「ロボカップジュニア東海大会」に出場しました。

「名古屋電気学園創立100周年」を寿ぎ

後藤淳理事長の式典式辞要約



学校法人・名古屋電気学園が創立百周年記念式典を迎えるにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

百年といいますが国内外でも学園でも特筆すべきことが次から次へと起き、中でも、科学が目覚しい進歩を遂げた百年でもあります。

こういう激動の中で学園は、一貫して“人を育てる”ということに尽力してきました。学園の始まりは国力を伸ばしていった大正時代にさかのぼります。工業化社会の到来をいち早く予見してその基盤となる「エネルギー」が電気であると見越して、その技術者の養成を考えたのが創立者・後藤喬三郎先生です。大正元年に名古屋電気学講習所を開設、すぐに設置認可を得て名古屋電気学校に改称しました。

昭和に入ると日本は第二次世界大戦、敗戦、混乱などを経て、奇跡とも言われる戦後の復興を成し遂げました。日本人の勤勉、優れた頭脳などがあげられますが、ひとえに“教育”のおかげといわれています。

この波乱の時期、学園を発展・拡大させたのが、前理事長の後藤鉦二先生です。戦後の新たな学制改革を受けて中学校から大学まで開学しました。その一方で、昭和46年、名古屋市で開催された世界卓球選手権大会に当時、国交のなかった中国選手団の参加を実現し米中、日中国交正常化の道筋をつけて、世にいわれる「ピンポン外交」のきっかけをつくるなど、先見の明に富んだ教育者でした。

以来、学園は着実に発展し、現在は愛知工業大学を柱に高校、中学、専門学校の4校を擁立する工科系総合学園として現在に至っています。これは学園のみならず、学園の歴史に携わってきた教職員、学生・生徒や卒業生の力の“結集”によるものであると思っています。

日本の使命であります「工業立国」を実現していくのが、学園の教育の根幹をなす“ものづくり”であることを確信し、次の100年に向けて、頑張っていく所存です。関係各位のさらなるご支援、ご協力をお願いして、ご挨拶とします。

名フィルと高校吹奏楽部との協演



「記念コンサート」で高校吹奏楽部が名古屋フィルハーモニー交響楽団と協演

夢が実現！十月二十六日、愛知県芸術劇場コンサートホール（名古屋市中東区）で高校吹奏楽部と名古屋フィルハーモニー交響楽団の協演が実現、「記念コンサート」が開かれ、ホールを埋めた聴衆に感動を与えました。



真上、伊藤宏樹顧問の指揮で「名古屋電気学園歌」など三曲を演奏しました

コンサートで高校の吹奏楽部との協演ができないでしようか」と話をしたことです。神尾氏から快い協力力の返事を得られ、今回の記念コンサートとなりました。後藤淳理事長、神尾会長が「高校生にとり一流の演奏家と協演できる喜びは大きい」と挨拶した後、吹奏楽部から演奏に入り



堂々」第一番など三曲を披露しました。吹奏楽部と名フィル協演となるⅢ部では、冒頭に作曲や指揮などで幅広く活動している鈴木英史氏の作曲した「祝典前奏曲『夢は遙かなる星へ』」名古屋電気学園創立100周年を祝つて、大井指揮で初めて演奏され、席を埋めた学園

た。それを受けて名フィルが大井剛史指揮で、E・エルガー作曲の「威風

や愛名会役員、大学ほか各設置校の教職員、学生、生徒、PTA、同窓生を感激させました。吹奏楽部はステージ後の二階席で演奏に加わり昨年度、全日本吹奏楽コンクールなど二つの全国大会で金賞をダブル受賞という輝かしい実績で大井指揮にちなみ、ひととき大きな拍手を受けました。アンコールの「ラデッキ行進曲」（ヨハン・シュトラウス一世作曲）では、伊藤顧問が指揮台に立つというサプライズもあって盛り上がりました。来場者総数は千六百余人でした。

教職員祝賀会

十一月十九日、名古屋市内のホテルで教職員が出席し開かれました。

特別講演の会場



各学科研究室を網羅した技術展示ブースに大勢の人が来場、盛況でした。愛工大テクノフェアは大学に求

本学最大規模の愛工大テクノフェア開催

「愛工大テクノフェア」創造・ひとづくり・ものづくり」を八草キャンパスの1号館を主会場に開催しました。講演をはじめ本学の付置研究機関、三学部の



学園創立百周年を記念し、愛知工業大学の総合技術研究所、大学院、学部なども記念シンポジウム、フォーラム等を開催し百周年を盛り上げました。

総合技術研究所(所長・澤木宣彦電気学科教授)は十二月七日、学園創立百周年記念として



発信をさらに推進しようと思われました。1号館三階メディア視聴覚室で行なわれた特別講演では、稲恒慎二副学長の挨拶に続いて、末永康仁情報科学部長(写真右)が「早期診断と安全治療のための多次元医用画像処理」と題して、長年、取り組んでいる多次元医用画像の解説や医療現場での用途、効果等について講演しました。また、遠藤守信客員教授(信州大学特別特任教授)は「写真左」が「カーボン・イノベーションへ

められていく社会貢献を目的に、各研究センター、大学院、大学で生まれた技術シーズを一堂に集めて公開し、産学官の連携、地域社会への情報

の期待」のテーマで脚光を浴びているカーボンナノチューブの現状、研究内容、今後の展望等について講演しました。会場には、後藤淳理理事長はじめ産業界関係者、本学の教職員、学生が詰めかけ、話をメモし、質問などをしていました。この後、隣の教室に移り講演会を開催。一柳勝宏エレクトロニクスセンター長(電気学科教授)が「平常時のエコ電力供給と災害時に強いインフラ整備」スマートグリッドによる電力供給システム」、井上眞一応用化学科教授が「バイオ燃料セルロースの糖化とその応用」、戸伏壽昭機械学科教授が「形状記憶合金の力学的特性とその応用」、さらに青木徹彦耐震実験センター長(都市環境学科教授)が「耐震実験センターにおける最近の研究と今後の課題」、尾形素臣建築学科教授が「国産材を使った新しい木造建築の開発」をテーマに、それぞれ講演しました。

一柳教授の私立大学高度化推進事業としてキャンパス内で進められた太陽光発電

経営情報科学研究フォーラム2012開催



本学大学院経営情報科学研究科は12月1日、自由ヶ丘キャンパスで、「名古屋電気学園創立100周年記念経営情報科学研究フォーラム2012」を開催しました(写真左)。

フォーラムでは講演に先立ち、後藤泰之学長が学園の100年を振り返り「次の100年へ向けたフォーラムと位置づけ、新時代を築く講演とし充実した1日にしてほしい」と挨拶しました。この後、講演に入り、中條直也教授が「IT技術の進展と自動車」、岡崎一浩教授が「日本企業のリスク:オリンパスと東京電力の事例研究」、柘植映二客員教授(元トヨタ車体副社長)が「企業の経営戦略」、坂本孝司教授が「わが国の中小企業政策の方向性と会計の役割」と題して、研究テーマ等を中心に講演しました。

電など取り込んだスマートグリッド実証システム等に関する研究成果や、青木教授の国内でも珍しい大型耐震実験装置により実現可能となった最新鋭民間旅客機や新幹線に関わる各種実験の報告などが出席者の関心を集めていました。呼び物の一つである技術シーズのブース展示は1号館一、二階のフロアを使って行なわれました。ブース総数は四十二にのぼり、テクノフェア開幕と同時に大勢の人たちが各ブースを回

り、担当教員、所属の学生の話に聞きいってました(写真上)。同日は併設して「第2回グリーンエネルギー」も、メディア視聴覚室で開かれ、アメリカなど海外の研究者、本学教員の講演、学生のポスター展示がありました。



写真上。同日は併設して「第2回グリーンエネルギー」も、メディア視聴覚室で開かれ、アメリカなど海外の研究者、本学教員の講演、学生のポスター展示がありました。



デジタルコンテンツの未来を探る
「情報科学シンポジウム」開催



大学 (担当) 情報科学部・大学院 経営情報科学研究科 は情報処理学会と共催で十月十九日、八草キャンパスの1号館・メディア視聴覚室で、「学園創立百周年記念情報科学シンポジウム―デジタルコンテンツ&コンシューマ機器の過去・現在・未来―」を開催。からくり人形のテクノロジから最新の技術まで幅広い研究発表などがありました。



今回のシンポジウムではコミックなど日本独自の文化がグローバル化へと展開しているデジタルコンテンツ(デジタルデータで表現された画像、映像、データベース等)の今後の展開、それを実現するコンシュー

マ機器について「からくり人形」のテクノロジを元にとどのように進化しているかを、最新技術の現状を踏まえて紹介しました。シンポジウムは午前と午後の二部で行なわれ、午後の部では塚本昌彦神戸大学教授が講演。「ウェアラブル・ユビキタスコンピューティングによる実世界コンテンツ」と題し、実世界で様々なデジタルコンテンツが生成されているのを踏まえ、それらのメカニズム、システム等について述べ、そのうえでメディアアートなどを実現する、いくつかのコンテンツを示しました。からくり人形師玉屋庄兵衛本学客員教授と末松良一本学客員教授が、からくり



を「からくり人形に学ぶものづくり」のテーマで講演しました。午後の部

は、井上友二トヨタIT開発センター会長が車とITによる車の進化等について「クルマの情報装備 Auto・0とAuto2・0」、奥野卓司関西学院大学教授が江戸時代は実は情報社会で今日まで不易流行しているという「モノづくり」から「モノづくり」へ：近世文化から「EV+サブカル」への不易流行」をテーマに話しました。写真。最後に「愛知工業大学におけるメディア情報分野の教育と研究」と題して末永康仁情報科学部長が、八草キャンパスに東海地区で初めて導入された4K大型精密映像投影設備等を駆使した学部の教育と研究について説明。この後、学部の各教員がそれぞれ取り組んでいる研究等を話しました。【写真は、上がシンポジウムの講師ら。中は会場

で講演を聴く教員、学生



学園100年を無線で内外へ

無線で国内外に学園創立百周年をPRしよう、高校同窓会アマチュア無線クラブが記念特別局を開設し、高校内の東管理倉庫内に設けた臨時無線局室などで各地のアマチュア無線愛好家と交信を行いました。無線クラブは、学園創立百周年という大きな記念行事に対し特別局を期間限定で開設できるということから、創立百周年記念特別局運営委員会を設置し石崎敏

也代表を中心に開設準備を進め、東海総合通信局の認可を得て十月一日に開局。期間は十一月三十日までの二カ月間で、コールサインは、「8N2100MD」でした。

無線局が置かれたのは臨時無線局室のほか各運営委員の自宅。土曜、日曜などに石崎代表、中嶋奨氏(昭和四十二年電子科卒)ら高校在学中に無線部(廃部)に所属していた会員らが臨時無線局室に集まり、交信を楽しみました。開設期間中の交信数は、海外の韓国なども含め、北は北海道から南は九州まで、三千近く

ののぼりました。委員会は近く、交信相手に学園創立百周年にちなんだ交信カードを送ることにしています。

学園トピックス

法種ま後各徒関者
古市千宮後各徒関者
名古屋市本堂後各徒関者
学山日泰寺本堂後各徒関者
の覚王山日泰寺本堂後各徒関者
が11月10日、後藤淳理理事長、藤泰之学長ほか学園関係者
が出席、学園関係者の
めい福を祈りました。



記念特別局を開設し無線で百周年をPRした石崎代表(前列左端)ら運営委員

学園創立100周年を飾る 大学・中学卓球 高校将棋 が全国大会で優勝に輝く！



顧問の原野先生と優勝旗、賞状などを手にした遠山さん、水野さん、笹川さん（右から）

大学卓球部の吉村真晴選手が全日本学生選抜卓球選手権大会男子シングルスで、中学卓球部の男子ペアが全日本卓球選手権大会、高校将棋部女子が全国高等学校将棋選手権大会団体戦でそれぞれ優勝しました。



文部科学大臣杯など手にした吉村選手



決勝で藤木選手と対戦する吉村選手⑥

吉村真晴選手（経営学科一年）が十一月二十四日（二十五日、名古屋市内で行なわれた）第9回全日本学生選抜卓球選手権大会（日本学生卓球連盟主催、東海学生卓球連盟主管）の男子シングルスで優勝し、初の学生ナンバーワンとなりました。また、森本耕平選手（同三年）、柴田直人選手（同二年）、加藤由行選手（同一年）の三選手もベスト8入りするという輝かしい成績を収めました。同大会の出場選手は十月の「第79回全日本大学総合卓球選手権大会」（個人の部）のシングルスランキング16位までと連盟に登録済みの外国人留学生らのみ。



試合後、学長（右から2人目）と鬼頭監督（同3人目）の見守る中、理事長から祝福される吉村選手

リーグ及び決勝トーナメント方式で行なわれました。本学から男女合わせて九選手が出場し、男子四選手が決勝トーナメントに進出。吉村選手は順当に勝ち進み、決勝で藤木祥二選手（中央大）との対決となり、4-2で破り初優勝に輝きました。会場には後藤淳理事長、後藤泰之学長も駆けつけ、試合後に吉村選手、鬼頭明監督と握手し優勝を称えていました。吉村選手は十月の大会でも、森本選手とペアを組み、優勝。加藤選手と共田准吾選手（経営学科一年）ペアも準優勝し、2フィニッシュを達成。吉村選手は最優秀新人選手賞も受賞しました。

富山県で行なわれた「第48回全国高等学校将棋選手権大会兼第36回全国高等学校総合文化祭将棋部門」（日本将棋連盟・全国高等学校文化連盟主催）の女子団体戦で初優勝しました。大会に出場した部員は水野翠さん（二年）、遠山侑里さん、笹川真由さん（一年）の三人。水野さんらは五月に行なわれた愛知県大会団体戦（一チーム三人）で優勝し、全国大会出場の切符を手に入れました。



後藤淳理事長から表彰される遠山さん



日、高校で行なわれ、後藤淳理事長から表彰状などが贈られました。

予選2回戦で対戦した優勝候補の青山学院高等部を終盤に逆転勝ちして勢いにのり、決勝トーナメントに予選1位で勝ち上がりました。準々決勝で再度対戦した青山学院高等部を3-0で下し、決勝でも幕張総合を2-1で破り、初の優勝を果たしました。

将棋部の学園表彰は九月二十四日、高校で後藤淳理事長、後藤泰之学長、佐藤忍校長が出席して行なわれました。理事長から顧問の原野照久教諭に賞状、水野さんから三人の部員にそれぞれ賞状と名前を刻んだ記念の盾が贈られました。

附中卓球部も全国優勝

附中卓球部の松山祐季選手（二年）**写真右**、木造勇人選手（一年）**写真左**が十一月に行なわれたJOCジュニアオリンピックカップ2012全日本卓球選手権大会・カデットの部男子ダブルスで優勝しました。木造選手は、シングルス十四歳以下の部でも準優勝。学園表彰は十二月十七

学祭で知恵やアイデア競う

大学や各設置校で今秋も恒例の学祭、体育祭がにぎやかに繰り広げられました。

大学では

「ダイブ!!!」をテーマにした「第52回愛知工業大学学祭」が十月六日、七日をメインに八草キャンパスで行なわれ、呼び物の「工科展」をはじめステージ、模擬店などに大勢の人たちが来場、盛り上がりました。



3Dモデルの審査で、優秀賞が最優秀賞を

学生の研究成果、ものづくりの成果などを一堂に集めた「工科展」**写真左**は、A I Tプラザ等を会場に建築研究会、人力飛行機同好会など二十を超える団体が出場し、競い合いました。学生委員会による審査で本学の校舎、建物を3D



受賞**写真上**、一般入場者から高い評価を受けた渡辺研究室がベストオブ工科展のほかに後援会特別賞にメディア情報研究室、瑞若会(同窓会)特別賞にRobot-Artがそれぞれ選ばれました。



女子や大の占いの会**写真上**には行列がで

一番のにぎわいをみせたセントラル広場では、他大や漫才グループらのお笑いライブが繰り広げられ、来場者も巻き込んで熱気に包まれていました。同好会などの出店した食べ物の模擬店

学園の創立百周年に合わせ「100thに本物の輝きがある!!!時代は名電」をスローガンに学校祭が九月二十日、各教室、喬徳館などを会場に開かれました。中でも注目を呼んだのが、専門学科一年生合同企画による百周年にちなんだ「過去、現在、未来」100年の展示。二教室を会場に過去から現在までの様々な変遷を写真、展示品などを使って表現。新旧の建物等を一枚の写真に



昔懐かしい茅ぶき屋根で100年を表現した専門学科1年生の合同企画入り口

高校では

ほどで、人気を集めていました。1号館内で同時開催された「秋のオープンキャンパス」にも、高校生の姿が絶えませんでした。



も、生徒が次々にステージに上がって、元気いっぱい熱唱、盛り上がりました**写真上**。

して比較したものもあり、この百年で社会、文化、生活、ファッション等がどう変ぼうしたか分かる力作。会場入り口に古民家の茅ぶき屋根を再現したほか、古いパソコンの実物を展示、テレビで生徒手づくりの映像「百年史」を放映と、工夫を凝らし見学に訪れた生徒、保護者を楽しませました。また、フライピンのスラム街の子どもたち、東日本大震災の被災者を支援しよう和被災者の作ったぬいぐるみ人形などを取り扱うクラスもあり、温かい雰囲気にも包まれていました。

喬徳館で行なわれた学校祭名物の各クラス競演によるダンスでは、自作の振り付けで踊る生徒らで熱気ムンムンでした。また、中庭で開かれたカラオケ会場で



グ、綱引きや長縄跳び**写真上**などの各競技にチーム一丸となつて、力を発揮していました。

体育祭は九月二十七日、高校と同じ日本ガイシホールを会場に開催。全員参加のガイシウルトラクイズを楽しんだ後、ガイシフラッグ、綱引き

中学では

競技はブロック及びクラスに分かれ熱戦を展開。綱引きなどのほか、今回は勇壮な騎馬戦**写真右**もあり歓声に包まれていました。



イシホール(名古屋市南区)で行なわれ、生徒が各競技に心地よい汗を流していました。

スポーツでチーム力を競い合う

高校では

体育祭は九月二十六日、日本ガ

専門学校

事故防止誓う

十月十日、四階大教室で一年生を対象に豊田警察署による交通安全講習会を開きました。



豊田警察署署員を講師に1年生を対象に開かれた交通安全講習会

同署員が講師となり全国でも交通死亡事故が多い愛知県の現状を踏まえ、事故の事例を挙げ、交通安全を呼びかけました。その中で深夜に交差点を青信号で直進した車が前方確認を怠ったため、赤信号を無視して横断していた歩行者をはねて死亡させてしまった事例を始め、最近の交通死亡事故の状況、死亡事故防止の取り組みなどについて話をしました。

講習会に参加した学生、教職員は交通安全を守ることの大切さを痛感していました。

愛名会だより

増田東大准教授が夢のエネルギーを熱く語る



夢のエネルギーについて語る講師の増田東大准教授

名古屋電気学園の後援組織・学校法人名古屋電気学園愛名会と中部産業連盟共催の「平成二十四年度講演会」が十二月三日、名古屋市中区の名古屋国際ホテルで開催され、東京大学大学院工学系研究科エネルギー・資源フロンティアセンターの増田昌准教授が講演しました。

講演会では神尾隆愛名会会長、竹内弘之中産連副会長が挨拶した後、増田准教授が「『燃える水』は資源小国ニッポンの『夢のエネルギー』となるか」と



増田准教授を迎えて行なわれた講演会会場

題して講演。その中で、資源の乏しい日本の周辺海域の海底地層中に、次世代の国産エネルギー資源として注目される天然のメタンハイドレート(以下MH)の膨大な量の存在が推定されているという話から始めて、MHとはメタンと水が結晶化した氷状で、過去の基礎調査でMHを含む海底地層のコアを採取することに成功し、MH層の存在を確認した経緯を説明。

さらに国が本格的な開発計画に乗り出し、三段階ステップでMH開発を進め、来年一〜三月に開発の第二段階として東部南海トラフ海域で、技術的に採掘可能かを調べる産出試験に向け

プロ入り



10月25日のドラフトで大学野球部から森下宗外野手(経営学科4年)が広島、高校野球部から濱田達郎投手(3年)が中日に入団しました。

て準備を進めている、と述べました。そのうえで、産出に成功してもすぐに商業生産が可能になるのではなく「単純な」道のりではないと結びました。

会場に詰めかけた約二百人の愛名会、中産連両会員は、現在の原子力発電所の存続問題等と絡めて大きな問題となっている日本のエネルギー事情もあり、真剣な表情で話に聞き入っていました。

増田准教授は、東京大学大学院工学系研究科修士課程修了。石油資源開発(株)、東工大工学部講師を経て、一九九二年に工学博士・助教に就任。メタンハイドレート資源開発研究コンソーシアム(経済産業省)フェーズ2プロジェクトリーダーとしてメタンハイドレート層からのガス生産手法の開発に取り組んでいます。

編集後記

▼「光陰矢のごとし」―字のごとく学園も百年という激動の時代を光陰のように駆け抜け、本年、百年を迎えました▼一口で百年と云いますが、後藤淳理事長が記念式典の式辞で述べたように、戦争あり、敗戦ありと、科学の目覚ましい発展ありと、まさに「山あり、谷あり」の連続でした▼その先の見えにくい大正時代にあつて、「工業化社会の到来」を予測し、果敢に学校経営に乗り出したのが創立者・後藤喬三郎先生▼愛知工業大学を筆頭に高校、中学そして専門学校を擁する現在の学園の姿を想像できただでしょうか▼今、私学を取り巻く環境は「少子化」問題など厳しいものばかり▼こうした時こそ、創立の時に立ち返り、様々な難問に対処し、乗り切ってきた創立者、先人の教職員の思いをかみしめる必要があるのでは▼まさに「初心忘るべからず」。その中から次の百年が見えてくるのではないでしようか。(久)